

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	1	課題区分	C	令和5年3月17日	
横断的な課題		人口減少下における広域連携の推進						木曽地域振興局
地域重点政策		人口減少下における人材の確保						
実施機関		木曽地域振興局 企画振興課 商工観光課			担当課	所属	企画振興課	
事業名		ふるさとの思い出品造成事業				電話	0264-25-2212(直通)	
						E-mail	kisochi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	進学、就職が身近である高校生に地域資源(もの、技術)を活用した思い出品を配付することにより、地域への想いを深め、将来の地域定着・回帰を促進する。 高校生がデザインした思い出品を、地元企業が製作協力するグッズとすることにより、地域への愛着と地元企業の周知を促し、地域の産業振興、地域活性化へと繋げていく。						
	現状と課題	木曽地域では、就学、就職を機にふるさとを離れてしまう者が多い。人口減少が加速している中、少子化対策、移住促進と併せ、若者の人口流出対策も課題となっている。 地域定着・回帰を促進するために、高校卒業のタイミングで、地域への絆・想いを深めることが必要である。						
	内容 (変更後の内容)	毎年度、1町村にスポットをあて、町村固有の特産品(もの・技術)を活用し、入・卒業等の人生の節目にあわせた記念品を制作している。制作に関しては県が町村と協働し行うが、次年度以降については、町村の事業として繋げていく。 ・R2年度は南木曽町を対象に、保育園入園の記念として、南木曽町の楯木工製作所の手形木製チャーム、南木曽町ねこ制作会の絵本バッグを制作、贈呈した。 ・R3年度は木祖村を対象に、小学校卒業時にマルオカ工業(株)の額縁とイーゼルの木工特産品を活用し、自らキャンバスに思い出の一枚を描き、贈呈した。 ・制作した子供、保護者に地元企業を知ってもらう機会となり、また地元の特産品の記念品を手元に置くことで、将来木曽地域への回帰を促す一助となることを期待している。 〈令和4年度:木曽町〉 ・木曽青峰高校インテリア科の高校生に観光用のアームバック(パンフレット等を入れる袋)をデザインしてもらい、木曽町及び地元で工場がある「(株)21インコーポレーション 水源水事業部」の協力のもと、アームバックを制作する。この事業については企業の仕事を紹介する意味も含まれるため、印刷は木曽町内の事業者が発注する。素材はプラスチック量を25%削減し、環境に配慮したエコ袋「PUL PEACE(パルピース)」を使用する。 ・出来上がったアームバックは、木曽町の観光パンフレット等を入れて木曽青峰高校3年生へ卒業記念として贈呈するほか、木曽町の各種イベント等でパンフレットを入れて配り、観光宣伝でも使用する。 ・観光パンフレットと商工観光課で作成した「木曽企業ガイドブック」を併せて贈呈し、木曽地域内の企業を紹介することにより、県外へ進学した高校生も将来的に地域内へ就職していただけるよう期待する。 ・それを卒業後も使用することで、地元から離れても、ふるさとを思い出させふるさと回帰を促進させるとともに、自分たちの作品が町の観光宣伝の顔ともなる実感と自信を深めてもらい、地域への愛着と地元企業の周知を促す。また、高校生の若い発想のデザインで町をPRし、地域振興へとつなげていく。 ・「(株)21インコーポレーション 水源水事業部」では木曽町内工場にて木曽の水からミネラルウォーターを製造し、販売している。令和1～3年の間、青峰高校生がデザインしたラベルをそのミネラルウォーターに採用していた。今年度はラベルデザインは行わず、企業からの提案もあり、アームバックを制作する。 ・次年度以降は、木曽町において継続してこの事業に取り組んでもらうための足掛かりとする。 ・今後木曽地域他町村においてもアームバックに限らず、同様の取り組みを行うきっかけとなるモデル事業である。 【変更内容】木曽青峰高校のデザインを募集した結果、最終的に2作品に絞られ、うち1作品が選ばれた。どちらも甲乙つけがたい作品だったため、選ばれなかった作品についても、クリアファイルにてグッズ化したい。						
		事業期間	令和4年8月 ～ 令和5年3月					
費事業	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額		備考	
	アームバック作成		作成費		364,650		@17.5×7,500枚×1.1	
	クリアファイル作成		作成費		60,610		@110.2×500枚×1.1	
		合 計		425,260				
指標及び達成状況	成果指標				目標値	成果	達成状況	
	木曽青峰高等学校卒業記念配付生徒数				380名	384名	● 達成	
	メディアへの掲載回数				2回	3回	○ 一部達成	
							○ 未達成	
事業実績・成果		・木曽町及び同町に工場を有する「(株)21インコーポレーション 水源水事業部」協力のもと、木曽町の観光用アームバックのデザインを木曽青峰高等学校インテリア科の生徒より募集した。 ・生徒2名の申し出があり、うち1デザインを観光用アームバックとして採用。もう1方のデザインでクリアファイルを制作した。 ・それぞれのデザインはこれから木曽町の観光の顔として町内外へ向けて発信されていく。 ・生徒にとっても、自分のデザインが対外的に発信され、これからの自信となった。 ・木曽青峰高校の生徒へも木曽郡パンフレットを添えてそれぞれ配布した。同じ生徒の作品が公的な宣伝物に採用されたということで、大きな刺激とそれぞれの思い出となった。						
今後の方向性		今までは、子どもたちの思い出を作る事業としてやってきたが、今後は実施内容を含め、交流職員が効果を高めた取組を企画し、より幅を持たせた事業とし、若者の地域定住を目指していく。						